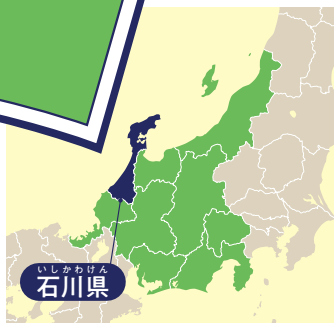


か が ゆ う ぜ ん
加賀友禪いしかわけんかなざわし
石川県金沢市

か が ゆ う ぜ ん きぬおりもの しよくにん て が かい が
加賀友禪は、絹織物に職人が手書きで絵画のようなもよ
うをえがく「友禪染」という技法が使われている染色品
です。着物や帯、ハンカチなどの小物が作られています。



「加賀」は、石川県南部の昔のよび名です。加賀友禪の歴史は、この地方どくどくの「梅染」という梅の木の皮や根をにた液で布を染める技術にはじまります。その後、江戸時代初期になると、京都で活やくしていた絵師・宮崎友禪齋の絹に絵をかくはなやかな表現が合わさり、技術が発達しました。

まめちしき

きょうと きょうゆうぜん いしかわ か が ゆ う ぜ ん とうきょう とうきょうゆうぜん にほんさんだいゆうぜん
京都の京友禪、石川の加賀友禪、東京の東京友禪は、日本三大友禪とよばれています。これら
すべての地域の友禪染は、宮崎友禪齋によってもたらされたといわれています。

みりよく
1でんとうてき いろづか
伝統的な色使い

か が ゆ う ぜ ん お だ や か な ち ち ち づ け いた 優 美 さ が と く ち ょ う
加賀友禪は、おだやかな落ち着いた優美さがとくちょう
です。色づけには、「加賀五彩」とよばれる5色の伝
統色を使っています。現代の加賀友禪作家は、この5
色をきほんにしながら、時代や自分の個性に合った色
味で表現しています。

えんじ
臙脂あい
藍こだいむらさき
古代紫おうど
黄土くさ
草みりよく
2しぜん そざい を 用 いた 技
自然そざいを用いた技

か が ゆ う ぜ ん し ぜ ん も ち わ ざ
加賀友禪はきれいに絵をえがくために、身近に
ある自然のめぐみを用いています。例えば、花
の汁を使った「下絵」とよばれる下書きや、も
ち米などから作ったのりを引いて色のにじみを
ふせぐ「糊置き」といった技法があります。

しよくにん のり お けい ざい
職人が糊置きをしている様子。みりよく
3し ぜ ん ひ ょ う げ ん
ゆたかな自然表現

か が ゆ う ぜ ん しよくぶつ この
加賀友禪には、とくに植物が好んでえがかれてき
たため、自然をえがく技法が発達しました。外か
ら内へ向けて色をうすくする「外ぼかし」や、虫
に食べられ、いたんだ葉をえがく「虫喰い」の
技法は、かんぺきな美しさではないありのままの
自然を大切にすることを伝えるための表現です。

はな びらの いろ あ そと は くら てん むし くい
花びらの色合いが外ぼかし、葉の黒い点が虫喰い。かんれんこうげいひん
関連工芸品きょうゆうぜん
京友禪
(京都府)

か が ゆ う ぜ ん お な みやざきゆうぜんさい う だ きょうゆうぜん さいご きん いと
加賀友禪と同じく宮崎友禪齋によって生み出されましたが、京友禪は最後に金の糸などで
ししゅうをほどこしたりするため、加賀友禪にくらべてよりかがやかしい仕上がります。

京扇子

京都府京都市ほか

京扇子は、竹を細くわった「扇骨」をたばねたものに、和紙や布などをはって作られます。あおぐためだけでなく、おどりやぎしき用としても使われています。



歴史

もっとも古い扇子は、平安時代初期に作られた「桧扇」という、木の板をたばねた扇といわれています。その後、当時は貴重だった紙を使った扇子も作られるようになり、高貴な身分の人が使用していました。鎌倉時代以降は、海外との交易の中で扇子のそざいや使われ方がさらに多様化していきました。

まめちしき

日本では扇子を開いた形は「末広がり」、つまり行く先ざきに向かって広がることから、縁起が良いとされています。今でも扇子は伝統的なぎしきなどで欠かせない持ち物です。

みりょく 1

風がやわらかく感じられる

夏用に作られた京扇子は、扇の広がりを作る扇骨とよばれる竹の本数が多いことで知られています。それにより扇骨どうしがなだらかならぶため、持つと手によくなじんであおぎやすい扇子ができます。



細く加工された扇骨。

みりょく 2

絵画と同じ技法

京扇子の絵は、全て職人が一つ一つ仕上げています。中でも「箔押し」という金箔や銀箔を紙にはり付ける技法は、京扇子のはなやかさをより引き立ててくれます。これは平安時代から使われている技法で、高度な技術が必要とされます。



職人が箔押しをしているところ。

みりょく 3

いろいろな楽しみ方がある

現在、京扇子はさまざまな目的のために作られています。暑さをしのぐための扇子だけでなく、能楽などの芸能に用いられる「能扇」、茶道に使う「茶席扇」、神社などのぎしきで用いられる「有職扇」などがあり、それぞれの扇子は日本の伝統的なくらしや文化とともに発展してきました。



関連工芸品

江戸扇子
(東京都)

骨の数が多き京扇子に対し、江戸扇子は骨の数が少ないです。「質素倹約（つつましくらすこと）」を良しとしていた武士の文化から生まれた、いきな扇子です。

京扇子の
みりょく



本で調べる

調べ物の
きほん

この本を読んで、わからない単語や疑問に思うことがあったら、他のしりょうでくわしく調べてみましょう。知りたい情報は、さまざまな方法で探すことができます。このページでは、本を使った調べ方のコツをしょうかいします。



本で調べる強みを知ろう

★情報の質が高い

本は、その分野にくわしい専門家など、本を書くのにふさわしい知識を持っている人だけが書くことができるので、しんらいできる情報がのっています。さらに、本は作られるときに多くの人の手で情報のかくにん作業が行われるため、まちがった情報がのりづらいです。

★情報が整理されている

本にのっている情報は、じゅんじょ立てて説明されているため、答えを探しやすいです。「もくじ」や「さくいん」では何ページにどんな情報が書かれているかをすぐに確認することができます。これらも活用してみましょう。

★自然と知識が身に付く

本は、具体的に調べたいことや知りたいことが決まっていなくても、気軽に利用できます。ページをめくっていると、自分が調べたいと思っていなかった情報も目に入ってくるため、自分のきょうみ・関心を広げることができます。

こんなことは本で学ぼう！

●きほん的な情報 ●専門的な知識

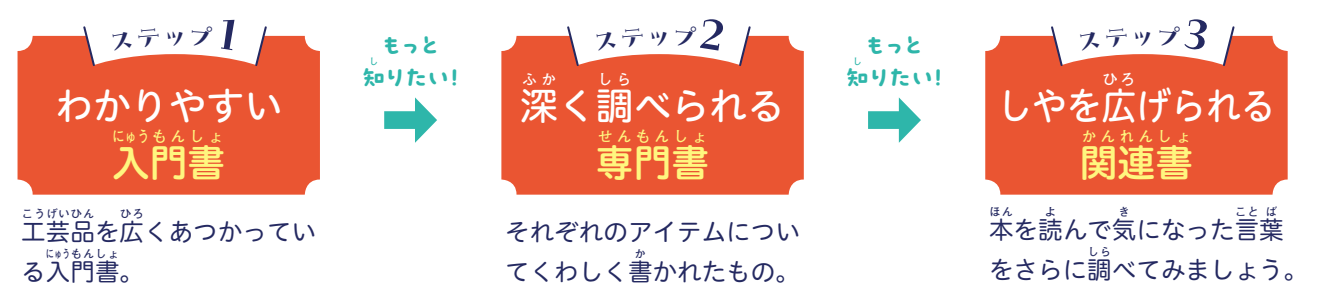
こんな きほんは本で 調べよう	・工芸品のとくちょうが知りたい！ ・工芸品の歴史が知りたい！ ・工芸品が作られている地域について知りたい！	・工芸品の作り方や技法について知りたい！ ・いろいろな工芸品をなんとなく見くらべたい！ - など。
--------------------------------	---	---

図書館で調べてみよう

図書館にはあらゆる分野の本が置かれ、それぞれジャンルごとに利用者が見つけやすいよう整理されています。気になる本を何冊でも手にとって見ることができ、読みたい本は無料で借りることができるので、調べ学習にぴったりの場所です。工芸品についての本は、「日本文化」や「伝統」コーナーなどに置かれています。近くの図書館で探してみましょう。

こんな順番で情報を探そう

本で調べるときのコツは、「やさしい情報」から「より難しい情報」へとちょうさを進めることです。1つの本だけだと、かたよった内容になってしまう可能性があるので、調べるときは複数の本を参考にしましょう。また、調べたことをリーフレットで発表するときは、参考にした情報をどこで見つけたのかを書かなければいけません。忘れずにメモしておきましょう。



困ったときは……

Q 探している情報が見つけられない！

A 一度、だれかに相談してみましょう。
調べ方を見直す必要があるかもしれません。図書館の人や先生、友だちに相談してみましょう。
図書館で本が見つけられないときは、図書館の人に聞いてみましょう。図書館に探している本が置かれていなかったら、お金はかかりますが書店で本を探したり、情報量が多いインターネットで調べてみるのも良いでしょう。2巻の「インターネットで調べる」も参考にしてみてください。

Q いろいろな情報があってもどれが本当かわからない！

A 情報源を確認し、どの情報が信じられるか自分で考えてみましょう。
まず、その本の情報の出どころ（出典）を確認してみましょう。作者はどんな人なのかや、どんな組織が出版している本なのかが、しんらいできるかどうかのヒントになります。日本政府など、大きい組織による情報の方がよく調査されていることが多いです。また、専門家によって意見が分かれる情報もあるため、いっただれが発信した情報なのかも確認しましょう。古い情報と新しい情報では、ちがいがあるかもしれません。